

# 奥会津だより



カモシカ、キツネ、テン、ウサギ・・・  
三角形を連ねて手前から奥へ向かうのはウサギ  
雪原に残された足跡から動物たちの行き来が見える

写真：山浦芳明

# 祖父からの聞き書き

伊藤 大翔★柳津町立柳津中学校 一年



これは、祖父の昭和四十年頃の写真です。この写真は祖父が木炭焼きをしているところです。昔は、黒沢地区は全戸が木炭焼きの部落なので祖父も木炭焼きをやっていたそうです。

祖父といっしょに写っている人は親友だそう。祖父は右の人で、祖父の親友は左です。この写真を撮った人は、祖父の親友だそう。この頃の友達は、ふつうの友達が五・六人いて親友が三人いたそう。祖父の同級生は、九十六人いたそう。この頃の祖父の歳は三十歳頃だそうです。

この写真の山は、黒沢の近くの山だそう。山にいた

生き物は、きつね、うさぎ、リス、たぬき、タカ、山鳥がいたそう。熊は、遠くの山のほうにいて全然いなかったそう。今と昔で山はどう変わったの。

と聞いて見たら、祖父が、「昔は木を切っていたり、木を植えたりして木の管理がしてあって、今は木の管理がしていないから木はいっぱい生えて大きくなっているんだよ。」

木炭焼きに必要な炭窯の作り方も教えてもらいました。まず、石で壁を作り、高さは1m二十cmくらいで幅は二mくらいで長さは四mくらいです。木が炭になると半分くらいになって、二つ切りにして俵につめて一つ十五kgにして終わりだそう。木炭は、この頃、売っていたりしていたそう。木はナラの木を切っていたそう。

いつも山に持っていく物は、ノコギリ、ナタ、弁当を持っていったそう。山に小屋を建てたりしてそこに別の必要な物を置いていたそう。

僕は、今も祖父が元気でいてもっと生きてほしいと思っています。

## 取材ノート

Q: 孫の大翔君がじいちゃんからの「聞き書き」を文章にまとめてくれました。いかがですか？

喜久衛さん: 昔はこの黒沢部落は、全戸(三十数戸)が炭焼きをやっていた。品質の競争も激しかったんです。他に仕事が無かったからなあ。

Q: 田んぼはどうですか？

喜久衛さん: 田んぼは、耕地整理もしていなかったから、炭焼きがメインでした。自分の家の米を食べられる人もあったが、食べられない人もあった。だから、炭焼きの競争も激しかった。会津の「木炭品評会」で二等賞を受賞した時は嬉しかった。炭俵の作り方も見られるからなあ。

Q: この小さい炭俵は？

喜久衛さん: これは、数年前に、炭焼きの技術が廃れたら大変だと思って、若い人たちに伝えようと会員のうちに十五キロの炭俵の小さいのを記念に配ったものです。木酢(もくさく)液を採ったり灰を採ったり。灰汁(あく)は、トチやワラビのアク抜きに使うのですが、ワラビなんかほんの



祖父: 伊藤 喜久衛さん

(昭和10年8月15日生79歳)

孫: 伊藤 大翔君

(柳津中学校 2年)

少しのあくでいいんですよ。そのあくというのは、サクラとかナラの木でないと良くないんです。

Q: 木酢液というのは、昭和四十年頃も採っていたのですか？

喜久衛さん: 採っていません、最近です。木酢液というのは、風呂に入れたり、飲んだり、頭につけたりしてもいいですよ。木酢液は煙突を長くして逆流させて冷やして水滴を採るんです。

Q: 朝のドラマ「マッサン」のウイスキー作りと似ていますね。

喜久衛さん: そんなもんです。その木酢液を柳津の雪まつりに持って行ったら、飛ぶように売れた。焼酎大五郎のペットボトル四リットルで千円。

Q: この写真に写されている親友の方は？

喜久衛さん: 九十二歳で亡くなりました。炭焼きしているところに遊びに来たんだ。この写真は十二月頃、窯作りが始まったばかりのころだろうな、雪が少ないから。

Q: どれくらいの量の炭を焼くのですか？

喜久衛さん: この頃は黒炭だったから、十日に一回、一カ月に三つということだ。一回に四十俵の炭を出す。

Q: 「熊は全然いなかった」とあります。喜久衛さん: そうだね。人家まで来るようになったのは最近のこと、恐いなんでことは無かった。

Q: 炭焼きの仕事、つらいと思ったことは無かったですか？

喜久衛さん: 子どもを育てるためだ、そんなことは思わなかった。

Q: 大翔君、ナラの木とクリの木、す



ぐに区別がつかますか？

大翔君: わかります。カブトムシ取りをやったことがあるので、山には行ってました。いろんな生き物がいるし、川があれば川遊びも出来るので面白いです。

Q: 炭焼きの仕事、チェーンソーとの出会いは？

喜久衛さん: 昭和四十年代だったかな、オレが初めて持って来た。みんな驚いたなあ、簡単に伐れんだもの。半日かかったのが一時間かそこらで出来た。「これは、いいな」って、それから、村の人みんなが、若松の中屋善兵衛で買った。

Q: 最後に「じいちゃん、元気で長生きしてほしい・・・」って、孫さんが書いてます。

喜久衛さん: ありがとう。オレが言ったこと、最初から上手に並べて書いてくれたんだもの、ありがたい。

Q: 大翔君、どうですか？

大翔君: 炭焼きのことは、わからないことが多いんですけど、僕も木を伐ってみたいと思いました。それから、楽しいことも無いと続かないので、楽しみながら山に興味をもつて関わっていければいいな、と思いました。

(写真: 文責: 菅 敬造)

## 奥会津の食材と料理



打ち豆

水で浸してやわらかくした青豆を、木槌で叩いて潰した保存食。各家庭での打ち豆作りは年末までの作業で、年をまたいで作ってはならないと言われてきた。すぐに火が通るので、煮物、炒め物、味噌汁など日常の食卓に頻繁に登場する冬の蛋白源。昆布出汁で炊いた打ち豆ご飯の柔らかな緑に、春が近づいたような気分になる。

## 魔除けと衣装



ちゃんちゃんこ  
↳ 麻の葉模様と赤の裏地

麻の葉模様は邪気を払う力があるとされる伝統的な和柄で、古くから様々な場面で使われてきた。麻のようにまっすぐ丈夫に育つようにと、子どもの成長と魔除けの意味も込めて作られたちゃんちゃんこだが、裏地の赤色もまた魔除けの意味を持つ。太陽や火の色と重なる朱色(赤色)に厄を除ける力を感じたのは、はるかに遠い時代だったが、その感覚は今も確かに受け継がれて子どもを守っている。



## 水場のある暮らし

写真・文 竹島 善一

三島町高清水の集落は、眼下を流れる只見川に沿って連なる。背後は山である。

水の供給源である山と、流出先に挟まれたここは、地名通りに豊かな水、それも上質な水に恵まれている。地面から立ち上げたコンクリート製の水槽と、地中に埋め込まれた弁の間に池がある。豊かとはいえ用途に合わせて水を使い分けるのであろう。

(平成17年12月 三島町高清水地区)



エゾユズリハ

一年を通してみずみずしい緑色を絶やさない常緑低木。雪に倒伏して冬を越す。新しい葉が出てから古い葉が落ちるので譲り葉。世代交代の安泰を願って縁起物に使われる。奥会津ではモチバといい、正月の松飾りに使用される。

## 奥会津の生き物たち ヤマドリ



日本の特産種でありながら、狩猟鳥とされている。冬季には道路付近の斜面でよく見かける。初夏、山道で幼鳥とエサをさがす姿はほほえましい。気づかずに近づき、いきなり足元から飛び出されて、びっくりすることも。

(鳥と花の写真・文：新国 勇)

# Q方言クイズ

クイズに答えて奥会津の地場産品を貰おう!

問題：次の方言の意味は何でしょう?

「にし」

ヒント：わたし・・・

正解者の中から抽選で2名様に、南会津町館岩の「木製トレー」をプレゼントいたします。

●応募方法：官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。

●あて先：〒969-7511

福島県大沼郡三島町大字宮下字中乙田979  
奥会津書房 宛

●応募締切：2015年2月15日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。 ※クイズの答えは次号85号で発表いたします。



◎83号「おっかなかった」の答え：「怖ろしかった」

たくさんのご応募ありがとうございました!

# 読者コーナー



## お便り紹介

- 奥会津地域おこし協力隊がある事は知りませんでした。写真付きでのコメントとてもいいことだと思います。(会津若松市 T.Yさん)
- 私の楽しみは表紙の写真です。更にコメントが味わう物語になっています。聞き書きは作文調にならず背景が浮かんでくるのでとても素敵なノートです。(郡山市 K.Nさん)
- 奥会津便りを読む度に昔のことが思い出されます。昔の生活習慣を大切にしていきたいと思います。「下駄の墨」我が家で今も靴の際も行っています。(本宮市 W.Mさん)
- カヤは屋根材として使うものと思っていました。からむし畑を守る垣根として使うことをはじめて知りました。良いからむしのできる事を祈っています。(我孫子市 K.Kさん)
- 私が子供の頃、新しい靴を下ろす時、母が必ず底の部分にマジックの黒で印をつけていました。午後履物を下ろすときはこうするんだって。(柏市 A.Nさん)

## 奥会津だよりの定期購読者募集中

ご希望の方は事務局まで発送先(ご住所・お名前)をご連絡ください。

問い合わせ先：只見川電源流域振興協議会事務局

TEL.0241-48-5525 FAX.0241-48-5575

E-mail: webmaster@okuaizu.net

## 第5回 歳時記の郷・奥会津ブランドフェア

奥会津の特産品や六次化推進事業で開発してきた新商品の発表の場として、コラッセふくしまを会場に開催いたしますので、多くの皆さまのご来場をお待ちしております。

◇日時 平成27年2月27日(金)～28日(土)

◇場所 コラッセふくしま  
福島市三河南町1番20号

## 歳時記の郷奥会津シンポジウム

パネルディスカッションや映画上映など、今年度当協議会が実施してきた事業の成果発表の場として昭和村で開催いたします。

◇日時 平成27年3月14日(土)

◇場所 昭和村公民館 昭和村下中津川字住吉415

◇問合せ 只見川電源流域振興協議会 TEL0241-48-5525

## 奥会津イベント情報

1月中旬～3月下旬

日時	イベント名	町村名	場所	問合せ
1月25日(日)	第8回サントリーカップGS大会	伊南地域	会津高原高畑スキー場	会津高原高畑スキー場 ☎0241-76-2231
2月3日(火)	『大泉寺』豆まき	南郷地域	南郷和泉田『大泉寺』	大泉寺 ☎0241-73-2118
2月7日(土)～8日(日)	第35回会津やないづ冬まつり	柳津町	道の駅会津柳津及びやないづふれあい館	会津やないづ冬まつり実行委員会事務局 ☎0241-42-2114
2月14日(土)	第43回雪と火のまつり	三島町	三島町町民運動場	三島町観光協会 ☎0241-48-5000
	第35回読売杯南郷スラローム大会	南郷地域	会津高原南郷スキー場	会津高原南郷スキー場 ☎0241-73-2111
2月14日(土)～15日(日)	第43回只見ふるさとの雪まつり	只見町	JR只見駅前広場	只見ふるさとの雪まつり実行委員会 ☎0241-82-5240
	第42回クロスカントリースキー伊南杯	伊南地域	南会津町多々石地区	南会津観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711
2月15日(日)	クレイジーダウンヒル		会津高原高畑スキー場	会津高原高畑スキー場 ☎0241-76-2231
2月21日(土)～22日(日)	全日本スキー連盟B級公認 HEAD&PEUGEOTカップ2015かねやまSL大会	金山町	金山町中川グラウンド	金山町観光物産協会 ☎0241-42-7211
			フェアリーランドかねやまスキー場	フェアリーランドかねやまスキー場 ☎0241-54-2022
2月22日(日)	第32回からむし織の里雪まつり	昭和村	道の駅からむし織の里しょうわ	からむし織の里雪まつり実行委員会 ☎0241-57-3100
3月14日(土)～15日(日)	第34回三島町生活工芸品展	三島町	生活工芸館	三島町生活工芸館 ☎0241-48-5502
	第14回全国編み組工芸品展		交流センター山びこ	三島町交流センター山びこ ☎0241-52-2165
3月21日(土)～22日(日)	全日本スキー連盟B級公認 スーパースポーツゼビオカップ2015かねやまGS大会	金山町	フェアリーランドかねやまスキー場	フェアリーランドかねやまスキー場 ☎0241-54-2022
			下坪福寿草まつり	昭和村 昭和村下中津川下坪地区
3月22日(日)	第5回高畑スプリングレース	伊南地域	会津高原高畑スキー場	会津高原高畑スキー場 ☎0241-76-2231
3月28日(土)	林千春メモリアルSAF公認記録会	檜枝岐村	尾瀬檜枝岐温泉スキー場	大会事務局 ☎0241-75-2500 (檜枝岐役場内)
3月29日(日)	朝日杯スラローム大会			大会事務局 ☎0241-75-2503 (檜枝岐役場内)



発行：只見川電源流域振興協議会(柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町(南郷、伊南、館岩地域)・檜枝岐村)  
発行日：1月15日発行(年6回発行) 事務局：〒969-7511 福島県大沼郡三島町町民センター(奥会津振興センター内) TEL.0241-48-5525  
http://www.okuaizu.net ☎webmaster@okuaizu.net 編集：奥会津書房 福島県大沼郡三島町宮下 TEL.0241-52-3580

★只見川電源流域振興協議会は、福島県只見川流域の7町村の活性化と振興を図るために活動している団体です。

この冊子は電源立地地域対策交付金の事業により作成されています。